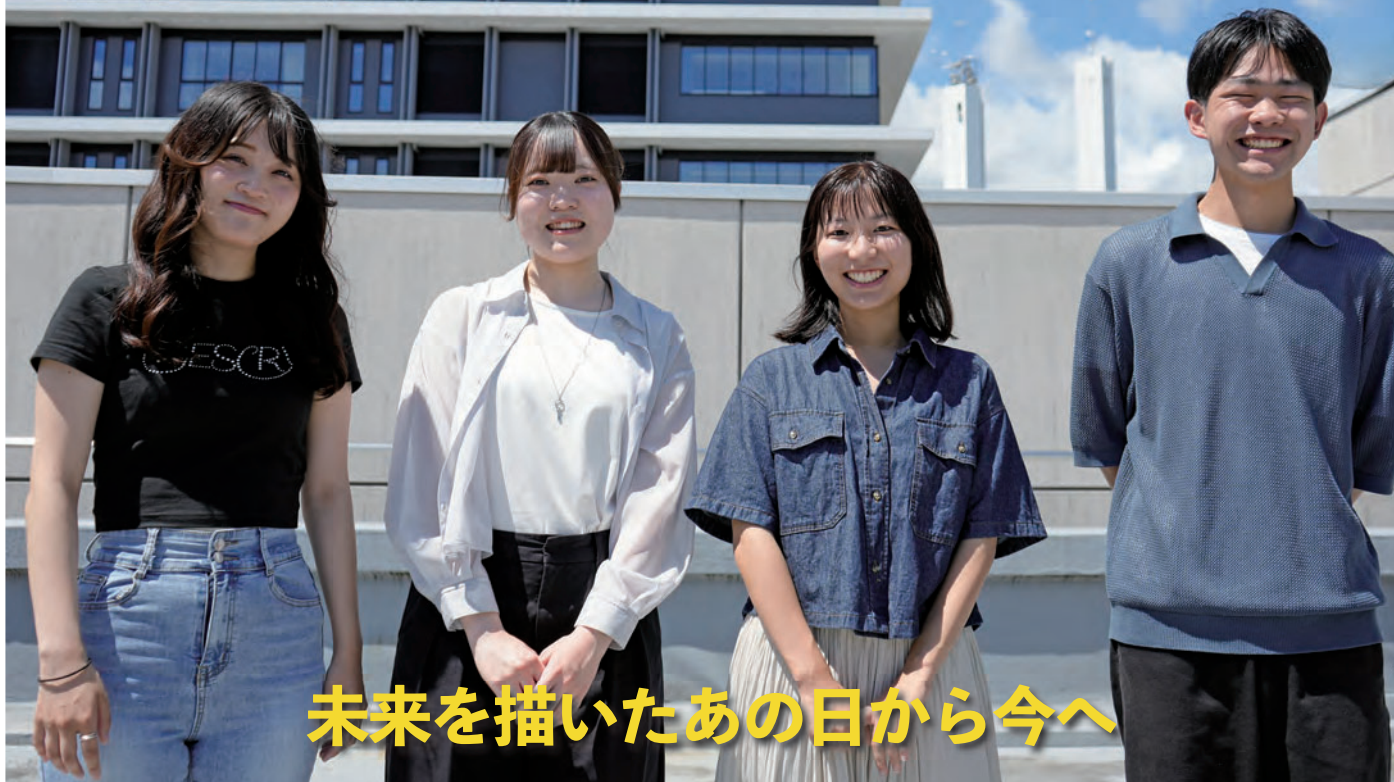


20歳×山口市誕生 20周年



未来を描いたあの日から今へ

▲写真左から斉藤さん、中田さん、金澤さん、和田さん

10年前、「やまぐちの未来」というテーマのもと、当時10歳の子どもたちが、思い描く将来のまちの姿を絵に描きました。どんなまちになっ
ていたらうれしいか、どんなふう
に暮らしていたいか——そんな気持
ちが、のびのびと表現された絵には、
子どもたちのまちへの思いが詰まっ
ていました。（市報やまぐち平成27
年10月1日号に掲載。下の
二次元コードからご覧いた
だけます。）



それから10年が経ち、子どもたちは20歳の若者に成長し、山口市は新市誕生から20周年という節目の年を迎えています。

今回の特集では、10年ぶりに集まっていた4人の若者と、新市とともに歩んできた入庁20年目の職員が、10年前に描いた絵を振り返りながら「現在の山口」「これからの山口」について、語り合いました。
☎ 広報広聴課 ☎ 083・934・2753

若者の目に映る 山口市の変化

——10年間で、山口市のどんなところが変わったと思いますか。

斉藤 新山口駅周辺がきれいになっ

て、新しくできたKDDI維新ホールでは有名アーティストのコンサートも観られるようになりました。さらに博記念公園では大型野外音楽イベントも開催されていて、身近な場所で楽しめることが増えたように感じています。

和田 道路等が整備され、自動車だけでなく、自転車や歩行者にとっても歩きやすいまちだと感じます。

金澤 私は大学の教育学部に進学していますが、山口市の教育環境は、コミュニティスクールやICT（情報通信技術）の導入、YCAMとの連携など、先進的な取り組みが進められていると思います。

中田 今回、新しくなった市役所本庁舎に初めて来ました。私が住んでいる地域の総合支所も最近建て替えられ、診療所も併設されていて、便利になりました。

「ずっと元気な山口」 の実現

——市では、10年間のまちづくりの方向性を描いた総合計画を策定しています。現在は第二次山口市総合計画後期基本計画に基づき、さまざまな施策に取り組んでおり、新市発足以降のまちづくりの総仕

10歳の私が描いた、やまぐちの未来



かなざわ かすみ
金澤 香澄さん

地元のお米、 野菜で元気に

私の家から見える、きららドームと田んぼがある風景が大好きで、この風景を残しつつ、地域で採れるおいしいお米や野菜をみんなに食べて、元気になってほしいという思いで絵を描きました。



なかた このほ
中田 香葉さん

ICTと伝統文化 両方大事

市内の小学校がネットワークでつながり、タブレットで会話をしている未来を描きました。その一方で、地域に根付く伝統文化もいつまでも残していきたいという思いで絵を描きました。



さいとう もね
斉藤 百音さん

自然がずっと 続きますように

川の水や青空がきれいなところが大好きです。この豊かな自然は、未来に残していきたいです。来春から県外で就職する予定ですが、将来的には、Uターンしたいという思いを持っています。



わだ あきと
和田 空斗さん

考えたことが 叶うといいな

幼いころ、祖父と一緒に新山口駅で新幹線やS/Yやまぐち号を見るうちに芽生えた、鉄道の設計をしたいという夢を県内就職で叶えました。現在は北九州市に転勤中。

ICTと伝統文化 両方大事

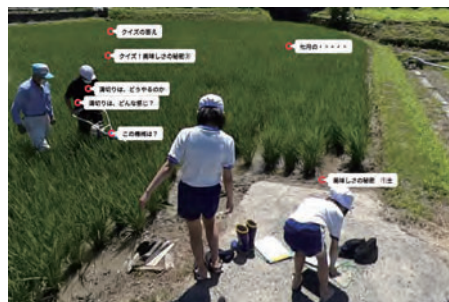
中田 私は、タブレット端末など、ICTが学校に取り入れられた未

上げとして、新本庁舎の整備や、湯田温泉こんこんパークを含む湯田温泉の再生整備を進めています。今回は、そうしたまちの変化を、中田さんが教育と伝統文化を題材に描いた「つながる学校」と、金澤さんが農業を題材に描いた「みどりあふれるまち」の2枚の絵を手掛かりに、関連する市の取り組みを紹介していきます。

来を想像しつつ、地域にある伝統文化も大切に受け継いでいきたいという思いで絵を描きました。

——教育環境の充実に向けた取り組みとしては、小・中学生に1人1台のタブレット端末を導入し、市立小・中学校とYCAMとの連携による先進的な教育事業として「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト」の取り組みや、指導者用デジタル教科書、AIDRIL教材等を活用し、ICTを活用した学びの充実を進めてきました。

中田 私たちは中学校へ進学後、コロナ禍で一斉休校を経験しました。学校から配布されたタブレット端末を使って、自宅でオンライン



▲小学生が作ったウェブ図鑑「360°図鑑」



▲タブレット端末を使用した授業の様子

ン授業を受けたとき、「描いた未来が現実になっている」と実感しました。



—このほかにも子育て家庭の負担軽減の取り組みとして、こども医療費助成制度を段階的に拡充し、昨年10月からは18歳まで医療費が無料になりました。第2子以降の保育料無償化や、学校給食費の公費負担の拡充などに取り組んでいます。

現在、山口市は、子育て世代といわれる30〜40歳代の転入が、転出を上回っている状況にあります。子育て世代に山口市を選んでいたという要因の一つには、こうした教育環境の充実や子育て支援に向けた取り組みが、評価されているのではと考えています。

また、昨年、山口市はニューヨーク・タイムズ紙の「2024年に行くべき52カ所」に選ばれ、国内外から大きな注目を集めました。室町時代から続く歴史や文化、そして人々の温かさが高く評価されたことは、まちの魅力を再認識する機会にもなりました。



▲ニューヨーク市マンハッタンで山口祇園祭をはじめとする山口の歴史と伝統・文化などの魅力を発信

和田 ニューヨーク・タイムズ紙の二コースにはすごく驚きました。でも、それ以上に、多くの人にふるさと山口市のことを知ってもらえたことで、とても誇らしい気持ちになりました。

—市では、こうした外からの評価をまちへの誇りと愛着へとつなげる取り組みにも力を入れてきました。子どもたちに向けたふるさと教育の推進や、ふるさと納税を活用した文化財保護など、市民がまちの魅力を守り、未来の世代へとつないでいく取り組みを進めています。

地元のお米、野菜で元気に

金澤 私は、田園風景が大好きで、みんなで農業をしている絵を描きました。でも、最近は耕作放棄地を見ることがあって、私が絵に描いた田んぼでも、今はお米が作られていません・・・。

—農林業を取り巻く環境は、耕作放棄地の増加や担い手不足など、厳しい状況が続いています。そこで市では、農林業をより重点的に支援するため、令和4年度に「農林水産部」を新設し、担い手の育成や6次産業化の促進など、多角

的な支援を進めています。また、道の駅の再整備やマルシェの開催など、生産者と消費者を直接つなぐ地産地消の取り組みも強化しています。

斉藤 家の近くの田んぼでドローンが飛んでいるのを見たことがあります。農業に新しい技術を取り入れようと、挑戦する農家さんがいて、そういう動きがもっと広がっていくように、市の取り組みも支えになっているんですね。

金澤 そういう取り組みを知ると、スーパーや道の駅で買い物をするときに、産地や生産者にも注目したくなりました。地元で作られたものをもっと食卓に並ぶようになれば、若い人も農業に興味を持つきっかけになるんじゃないかなと思います。



▲あぐまるやまぐち（マルシェ）

まちづくりの主役は、 そこに暮らす人々

— 他にも、医療・介護、防災、交通、産業振興などあらゆる分野において安全・安心で快適に暮らせるまちを目指した取り組みを進めています。

山口市では、「ずっと元氣な山口」の実現に向けて、多岐かつ複雑化する地域課題に向き合いながら、市民の皆さんをはじめ、関係機関、団体等と共にまちづくりを進めています。

齊藤 今日、私たちは幼いころに描いた絵をテーマに、一部ではありますが、まちを良くし、未来を創る市の取り組みについてお話を聞くことができ、大変貴重な経験になりました。

まちづくりは行政だけでなく、地域の皆さんの思いも大切にされながら進められていることがわかりました。

山口の未来

— 今年、山口市は新市誕生から20年を迎えます。次なる10年に向け、これからの山口市は、どんなまち

になってほしいですか。

和田 若者が楽しめる娯楽施設がもっと増えるとうれしいです。また、駅などの交通結節点を中心にもっと栄えて、その活気がまち全体に広がっていくといいなと思います。

地元で就職したい若者が希望する仕事ができる環境がもっと増えると、まちが元氣になると思います。

中田 市街地以外の地域でも、公共交通機関や買い物ができるお店がもっと充実するといいですね。高齢者にもやさしい、暮らしやすい地域づくりが進むことで、多くの人にとって住み続けたいくなるまちになると思います。

また、観光客など、その地域の人以外もアクセスしやすくなることで、多くの方に市内各地域の魅力に触れてもらえる機会が増えると思います。

これからの10年、 そしてその先の 未来に向けて・・・

10年前、当時10歳の彼らは、子どもらしい柔軟な発想で「やまぐちのみらい」について語ってくれました。10年の歳月を経て成長した若者の視線から、まちづくりへの率直な思いを聞くことができました。

新市誕生から20年。市ではこれまで、子育て・教育をはじめとした市民サービスの充実を図りながら、地域づくりの拠点としての地域交流センターや、新たなビジネスと交流創出に向けたKDDI維新ホール、子育て家庭が安心して過ごせる湯田温泉こんこんパークなど、市民や地域、事業者の皆さんの活動の舞台となる社会基盤を着実に整えてきました。

今後は、こうした舞台を活用し、さまざまな世代の元氣な活動を支えることで、まち全体の活力を高めていきます。また、歴史や文化をはじめとした本市の個性、「山口らしさ」を伸ばし、都市としての魅力をさらに引き出していくことで、もっと選ばれるまちを目指していきます。

これからの10年、そしてその先の未来も、「ずっと元氣な山口」を実現していくために、全力の取り組みを進めていきます。

新市誕生 20 周年記念事業

山口市誕生 20 周年記念式典

10/4 土 10:00 ~ / 開場 9:00
山口市民会館大ホール (入場無料)

特別講演会 11:15 ~ 12:15 (予定)
～地域それぞれの個性を活かした
まちづくりのこれから～



講師
西村幸夫 氏

記念式典・特別講演会の空席状況等の詳細は、右の二次元コードをご参照ください。



地球の歩き方 永久保存版

山口市

Yamaguchi City

市民参加型アンケートの声を反映し、地元で愛されるおすすめスポットやご当地グルメ、隠れた名所が多数掲載されています。

**市内の書店にて
10/9 (木) 発売!**